



**HANNAN Road to 2030**  
~Commitment to Well-being and Innovation~  
HANNAN University Since 1965

2025.04.01~2030.03.31

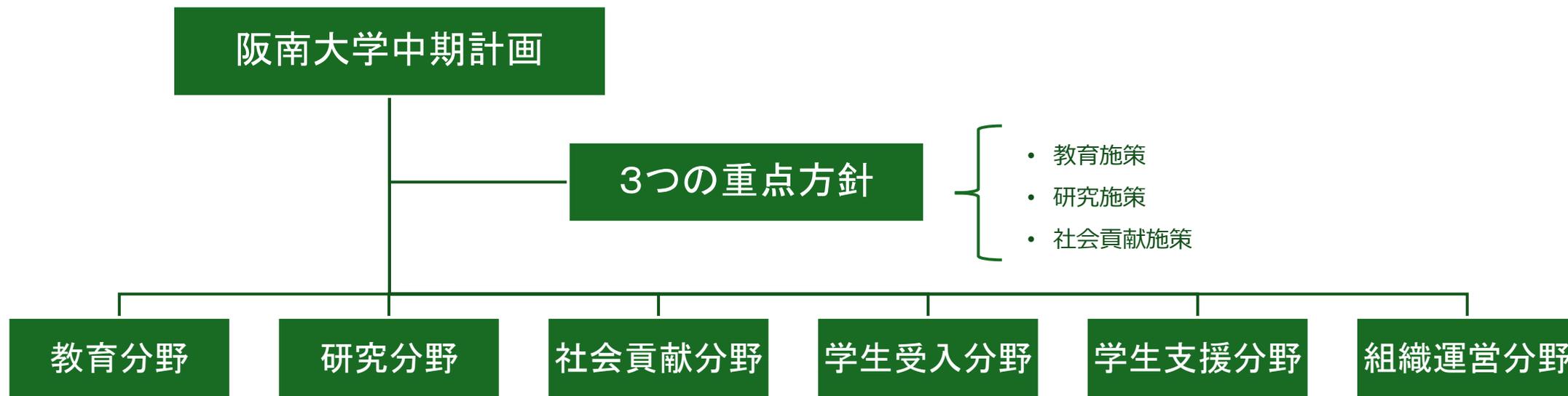
## 阪南大学は、大きな変革に挑戦します。 ウェルビーイングにあふれ、社会が求める新たな価値を共創できるイノベーション・コモンズへ！

阪南大学の中期計画（2025年度～2029年度）は、教育・研究・社会貢献の3分野での革新を通じて、地域および国際社会への持続可能な貢献を目指す包括的な計画です。急速な社会の変化やAI時代の到来に対応し、次世代を担う学生や社会の多様なニーズに応えることを目的としています。

### 中期計画マップ

阪南大学中期計画は、令和7（2025）年4月1日から令和12（2030）年3月31日までの5カ年計画です。

「ウェルビーイングにあふれ、社会が求める新たな価値を共創できるイノベーション・コモンズへ！」を達成するために3つの重点方針と6つの分野毎に施策を設定しています。



## 3つの重点方針

### ☑ 教育施策の方針：学修者本位の教育への転換を図り、AI時代における教育の充実と改革を促進します。

現代の急速な技術進化と社会変化に対応するためには、教育の在り方も大きく変革する必要があります。本学は、学修者本位の教育への転換を図り、AI時代にふさわしい教育の充実と改革を推進します。学生一人ひとりのニーズや学修スタイルに応じた学修環境を提供し、AI技術を活用した革新的な教育手法の導入を目指します。学生が主体的に学び、未来に必要なスキルと知識を身につけることを支援し、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

### ☑ 研究施策の方針：外部との積極的な連携と知識の共有を通じて、研究の質と成果を向上させます。

ビジネス環境や社会課題が急速に変化する時代において、大学の研究は社会の課題解決に重要な役割を担っています。本学は、研究インテグリティを推進し、外部との積極的な連携と知識の共有を通じて、研究の質と成果を高めることを目指します。企業や他大学、国際的な研究機関との協働を推進し、最先端の知識と技術を取り入れることで、研究の深さと広がりを増し、社会に対する影響力を強化します。学術的な探求のみならず、実践的な課題解決にも貢献し、持続可能な未来を創造するための道を切り拓きます。

### ☑ 社会貢献施策の方針：社会が抱える課題に対し集積された知と場の価値提供で解決します。

現代社会が直面する多様で複雑な課題に対して、地域社会との連携を強化し、イノベーション・コモンズ（共創拠点化）を整備していきます。阪南大学のプレゼンスを、大阪南部から難波に至る地域で拡大し、地域にとって必要不可欠な存在として『真の地域一番』を目指します。これまでの社会貢献をさらに深化させ、本学を共創拠点として確立していきます。

## 教育の将来像

### Future Vision for Education

#### ☑ 学修者本位の教育への転換・促進

学修成果を可視化させ、また客観的かつ厳格・公正・公平な成績評価及び単位認定、卒業認定などを行うことで、学びの成果を明確に示し、学生自身が自発的・自律的・計画的に学べるようにします。

#### ☑ 学生の学修効率の向上および学修時間の増大

学生の学修状況の把握、授業時間や学期等の見直し及び授業外学修を含め主体的・効果的な学修の励行など学生の学修効率の向上および学修時間の増大を図っていきます。

#### ☑ 時代に即した授業形態の開発・発展

デジタル社会に対応したリテラシーを養成し、また対面授業と遠隔授業の長所を組み合わせた効果的な授業などを通じて、学生が現代社会に適応し、必要なスキルを修得できる学修環境を提供します。

#### ☑ 文理複眼的な思考※ができる人材育成

副専攻制度の充実や国内外他大学との単位互換促進などにより、文理複眼的な思考ができる人材を育成します。

※文理複眼的な思考：文系と理系の両方の視点から物事を捉え、総合的かつ柔軟な解決策を見出す能力のこと。



## 教育の将来像

### Future Vision for Education



#### ☑ AIに担えない真に人が果たすべき役割を考え実行できる人材育成

後期教養教育やリベラルアーツ教育、課題解決力に重点を置いた教育、さらに地域社会や企業と連携した実践的なスキル育成プログラムの実施や対外発信力の育成などに力を入れ、AIに担えない真に人が果たすべき役割を考え実行できる人材を育成します。

#### ☑ 多様な価値観を持つ多様な背景の人材の育成

リカレント教育、リスキリングプログラムを推進し、また本学に適した留学生教育プログラムの検証にも取り組んでいきます。多様なバックグラウンドを持つ学生がそれぞれの能力を最大限に発揮できる学修環境を整えていきます。

## 研究の将来像

### Future Vision for Research

#### 研究活動の推進・深化

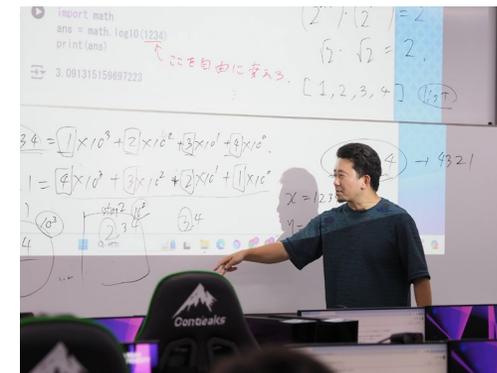
AI・データサイエンス教育研究所では、Society5.0に対応するAI・データサイエンス教育及び基盤となる数理教育を全学的に行うため、その教育に関する研究を統轄し、AI・データサイエンス教育への理解を浸透させます。また、外部研究資金を戦略的に獲得したり、研究成果の情報発信を強化したり、大学間連携による研究促進などにも取り組みます。

#### 研究環境の整備

研究倫理の遵守に努め、研究活動の透明性を確保し、説明責任を果たすといった研究者や研究組織としての「規範」である研究インテグリティの確保を目指します。また、図書館設備の充実を図り、図書館利用環境の整備などに取り組みます。

#### 研究成果の社会還元と実装化

研究成果を広く社会に還元できる仕組みを実現できるよう、関係機関と協議していきます。また、研究成果発表会やシンポジウムなどを定期的  
に開催し、社会一般向けの研究成果公開イベントや教育プログラムなどが実施できるよう計画します。



## 社会貢献の将来像

### Future Vision for Social Contribution

#### ☑ 地域社会との連携強化、イノベーション・コモンズ(共創拠点化)の整備

企業、自治体、NPOなどと連携し、教育研究活動の成果を地域社会や産業界のニーズに結び付けることで、社会課題の解決に貢献します。また、生涯学習、地域や産業界などの多様な担い手と共同プロジェクト等を進めます。さらに、「社会貢献」を教育・研究に次ぐ第三の柱と位置付け、地域経済の活性化と社会的課題の解決に向けた拠点としてイノベーション・コモンズの設立準備を行っていきます。



#### ☑ 学生や教職員の学術交流の促進

教員や学生による研究成果の積極的な発信を通じて、地域が抱える課題を見極めるとともに、諸機関との連携を強化していきます。さらに、国際的なさまざまな機関との連携を深め、学術交流を活性化させます。集積された知及び技術を基盤に、学外への新たな交流機会を提供し、多様なステークホルダーとの協議を継続的に行いながら学生や教職員の学術交流を促進していきます。



## 学生受入の将来像

### Future Vision for Student Enrollment

#### ☑ 選ばれる大学をめざし、新たな入試制度改革方針に沿ったブランドアップを図れる入試制度の構築

大学のブランド力向上を目指し、DXを活用した入試システムの構築による業務効率化や受験者の利便性向上を図りながら、新しい入学試験を導入します。これらの取り組みにより、選抜入試での競争力の強化を図り、受験者に選ばれる大学を目指します。

#### ☑ 多様な価値観を持つ多様な背景の人材の受入れ

大学の多様性と魅力の向上を目指し、年齢や国籍などを問わない幅広い学生の受入れを実施します。また、編入学制度の現状を分析し、受入れを広げます。18歳人口に依存しない学生募集の可能性を探るとともに、大学の多様性を広げていきます。



#### ☑ 高大接続の取組強化

高大接続の取組を強化し、教育基盤を軸にプログラムの設計と拡充を進めるとともに、阪南大学高等学校を中心に連携校と教育連携の可能性について協議を深化させ、連携を強化します。また、専願制入試における安定した入学者確保を目的に、連携候補校と具体的な交渉を進め、連携校の拡大を図り、高大連携を主旨とした入試制度の設計および対象校の策定を進め、これらの取り組みを通じて入学者の安定確保を実現します。

#### ☑ 大学広報の強化(広報・マーケティング戦略の推進)

大学のブランド価値を向上させ、効果的な学生募集を実現するため、広報体制の強化と広報・マーケティング戦略の推進に取り組みます。まずは、広報体制の見直しとリソース配分の最適化を行い、広報セクションの強化を図ります。また、ブランドイメージを明確化し、認知度向上を目指した長期的な戦略を策定し、多様なステークホルダーへのアプローチを強化することで、入学試験の競争倍率や偏差値の向上を目指します。



## 学生支援の将来像 *Future Vision for Student Support*

### ディプロマ・ポリシーに到達できる学生への 粘り強い支援

ディプロマ・ポリシーに到達できる学生を育成するため、粘り強い支援を行います。また、持続的な離学者抑制を目指し、過去の離学者データを多角的に分析し、離学要因を特定するとともに、離学率低減に向けた具体的な施策を全学的に展開します。

### 学生生活への支援

学生生活の支援として、有効的な奨学金制度を検証します。クラブ・サークル等の加入率を向上させ、学生のつながりを深めます。通学環境整備を進め、学生の利便性向上に努めます。学生相談室や保健室の運用向上を目指します。活発な国際交流支援を促進していきます。

### 修学への支援

より効果的な入学前教育や学修支援体制の更なる充実、多様な学生へのきめ細かな支援を通じて、修学環境の向上を図ります。また、保護者との連携を深め、修学支援を強化します。

### キャリア支援

キャリア支援では、学生の自立を促し、社会で活躍できる人材の育成を目指して、多様なキャリア選択を支援します。実就職率向上に向け、就職支援体制の強化として学生一人ひとりを手厚くサポートします。また、資格取得支援では、社会的ニーズの高い資格に対応した講座を開講し、公務員試験対策では学生に適した受講コースを提供することで合格率向上を目指します。



## 組織運営の将来像

### Future Vision for Organizational Management

#### ☑ 自己点検・評価活動の不断の見直し

自己点検・評価活動を通じて教育・研究・社会貢献の質向上を図り、大学の理念と目的の達成を支える基盤を強化します。そのため、内部質保証システムの現状分析と強化計画の策定、第4期大学認証評価への準備、学生の意見や外部評価を取り入れられる仕組みを構築します。また、教職協働による重点施策の推進を図り、大学の質保証と運営改善を継続的に実現します。

#### ☑ 自由と清新の気風のもと、メンタルヘルスとウェルビーイングの強化

全ての構成員が尊重され、安心して学び働ける環境を目指し、メンタルヘルスとウェルビーイングの強化に取り組みます。ハラスメント撲滅のための方針見直しと防止研修を実施し、個人の尊厳への配慮に関する教育プログラムを策定・実施します。組織的なSD活動等による教職員の質向上、学生・教職員の満足度向上を図り、より良い人間関係と安心できる環境の実現を目指します。

#### ☑ 地域や産業のニーズに応えられる学位プログラムの模索

地域社会や産業界のニーズに応え、時代の要請に適応する学位プログラムの模索を進めます。既存学位プログラムを検証し、新大学設置基準の調査に基づいて学位プログラムの見直しを行います。また、財政基盤を踏まえた教育研究組織を鑑み、社会の要請に応えられる学位プログラムの策定を目指します。

#### ☑ 大学運営体制の充実と効率化

学長のリーダーシップを基盤に大学運営体制の充実と効率化を図ります。組織的なSD体制の確立に努め、コンプライアンスの徹底、リスクマネジメントと危機管理体制の強化、情報公開の推進、大学組織としての外部資金導入への取組み、業務効率化、機構改革などに取り組んでいきます。

